

悠久の名作シリーズ(18)

『山行』 杜牧

最晩年杜牧が描く理想郷

山行 杜牧 山行 杜牧

遠上寒山石径斜 遠く寒山に上れば 石径斜めなり

白雲生處有人家 白雲生ずる処 人家有り

停車坐愛楓林晚 車を停めて 坐に愛す 楓林の晩

霜葉紅於二月花 霜葉は二月の花よりも紅なり

【語句の意味】

山行 山あるき。

遠く 山の奥に分け入って。世俗から離れる。

寒山 ひと気がなく寂しい秋から冬にかけての山。

石径 石の多い小径。

白雲 山中の洞穴から湧き出るとされ世俗の外の世界を象徴する。

停車 手で押すような車。

坐 何となく。自然に。

晩 夕暮れ。「くれ」と読む説もある。

霜 葉 霜にあたって紅葉した楓の葉。

二月の花 陰曆二月。陽曆三〜四月。

紅こう 於お 一般的に桃の花をさす。

：よりも紅い。後世この詩の結句から「紅於」が楓の別称として用いられるようになった。

【詩の意味】

もの寂しい晩秋の山を遠く奥まで分け入って登り行けば、石の多い小道が斜めにどこまでも続いている。

そのかなたの白雲が沸き起こるような高い所にも人家がある。車を停めて、夕日に照り映えた美しい楓の林になんとなく見とれてしまう。霜にあたって紅葉した楓の葉は、春二月の盛りに咲く花よりさらに真紅で燃えるように輝いている。

【鑑賞】

●夕映えに照り輝く楓の美しさ

新教本A1-12にあるように、前半の寒山・石径・白雲はいずれも秋の冷ややかな感じをただよわせる語で、墨絵のような世界を描き、転句の「晩」からは夕日を暗示させ、その光がスポットライトとなって、後半の楓林・霜葉・紅・花を浮き立たせている。霜葉はいやが上にも美しく光り輝く。

そしてこの詩の最大の妙味は、霜にうたれて色づいた楓の葉を二月の桃の花よりも紅く美しいと詠ったその意外性にある。当時の中国の人たちにとって、桃の花と霜葉を比べるなど思いもつかないことだったろう。

中国古典詩においては、秋の季節を「悲秋」ととらえる文学の系譜がある。草木は揺落し人は老い衰える。杜甫の「登高」などその典型である。一方、「山行」は秋の風景描写それ自体のなかに「悲秋」を否定し秋を肯定する心情が流れ、春よりも秋を愛する杜牧の「愛秋」的な美意識を感じることができよう。

少し穿った見方をすれば、「霜にあたって色づいた葉」は杜牧自身のこと、歳も取り多くの苦勞をしてこそ人は美しく紅葉するという人生観さえ感じられる。

●最晩年の理想郷

「語句の意味」の項でふれた「遠く」と「白雲」のもう一つの意味に着目したい。いずれも世俗の外の世界を象徴する。

山の石だらけの小道を登って行くと、やがてぱっと美しい景色のところへ出る。それは夕陽に光り輝く楓林の世界。思わずわれを忘れ見入ってしまう世俗を超えた世界。斜めに走る石径が煩わしい俗界と妙なる理想郷との境目になっていて、遠くに見える人家も俗世を離れて棲む人のものだろう。心を打たれた杜牧、自分もそのような理想の世界に棲みたいと強く思ったに違いない。

●杜牧と「山行」

杜牧の生きた晩唐は、王朝の権力が宦官によって左右されるなど、政治の腐敗と混乱が続き、外からは異民族の侵攻にさらされて、唐の崩壊すら予感させるような状況にあった。

杜牧は唐の皇帝三代にわたって務めた宰相杜佑の孫として由緒ある名門の家に生まれ、若い頃は才気あふれる風流貴公子として華やかな宴遊・妓楼の世界に名を馳せた時もあったが、その後各地の刺史（長官）を歴任し、最後は長安で中書舎人に昇進した。しかし、時代は祖父のように宰相として活躍できる場を与えず、五十歳にして没した。

この「山行」に描かれた理想郷は、杜牧が石ころだらけの山道を様々な困難を通り抜けて最後に到達した境地だったのだろう。

杜牧は死ぬ間ぎわになって、それまでに作った詩文の大部分を焼き捨ててしまったという。そのため「山行」が作られた時期は明らかにしがたいが、おそらくその詩の内容から最晩年に作られたものであろう。

【備考】

(一)「唐詩選」には杜牧の詩が一詩も採用されなかった。それは、十三世紀前半、南宋嚴羽の「滄浪詩話」にいう「漢・魏・晋等の作と盛唐の詩とは第一

義なり。大曆以還（以降）の詩は則ち已に第二義に落つ。晩唐の詩は、則ち声聞・辟支の果なり」によるものだろう。声聞・辟支とは禅の悟りの段階で程度の低い悟り、則ち最下位にあたるものをさす。明代になって編集された「唐詩選」はこうした盛唐の詩を高く晩唐の詩を低く評価する考え方を継承している。杜牧など晩唐の詩人たちも多様な唐詩のなかで重要な位置を占め、低く評価されるべきではないだろう。

(二)「山行」で描かれている風景（寒山・石径・白雲・人家・車・楓林・人）は構図といい配色といい正しく一幅の絵である。後の山水画に「停車愛楓図」という題材を提供することになった。



桜間青厓【楓林停車図】
〈一般財団法人文人画研究会所蔵〉
(1786~1851)

参考文献

- 「杜牧一〇〇選」……石川忠久NHKライブラリー
「杜牧詩選」……松浦友久・植木久行編訳 岩波文庫
「唐詩」……村上哲見 講談社学術文庫
「唐詩解釈辞典」……松浦友久編 大修館書店
「杜牧の研究」……山内春夫 彙文堂書店